

社団法人私立大学情報教育協会  
平成 21 年度 第 3 回 歯学教育 FD/IT 活用研究委員会

- I. 日時 : 2009 年 11 月 27 日 (金) 午後 17:00～午後 19:00
- II. 場所 : 私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者: 神原委員長、松久保委員、岡本委員、森實アドバイザー、藤井アドバイザー  
井端事務局長、森下主幹、恩田

配付資料

1. 分野別教育における情報教育の検討について  
参考資料 (4. 1) 「英語教育における学視力の考察」
2. 新しい一般歯科医のためのコンピテンシー (by ADED; J Dent Edu 72, 823-6, 2008)
3. 各委員作成のヨーロッパにおけるコンピテンシー 「Profile and competences for the European dentist」 European Journal of Dental Education 2005;9:98-107 のレポート
4. その他

検討事項

1. 本日の記録担当
2. 歯学教育における分野別情報教育について  
21 年度における歯学教育情報委員会の活動として、以下の 3 つの活動方針の説明があった。
  - 1) 分野別教育に必要な情報活用として、「到達目標」、「到達度」、「教育内容」、「教育方法」、「到達度確認の測定手段」の項目について検討する。
  - 2) 歯科教育の IT 活用研究を検討し、中間的なとりまとめをする。22 年度以降は 3 つの分科会 (情報を専門とする、情報を専門としない、リテラシー) にこの問題を移行し、研究結果を公表し、その実現に向けた普及活動を展開する。
  - 3) 教員の学士力の問題  
教員の教育力の促進に如何に IT を取り入れるかを再度検討する。
3. 歯学教育における教員の教育力について  
歯科医師の卒前教育の中で新しく卒業する歯科医師が兼ね備えておくべき能力として、グローバルスタンダードに乗っ取ったコンピテンシーを考える上で、ヨーロッパの歯科教育学会が提示している 「Profile and Competences for the European dentist」 を基に、日本およびアメリカのコアカリキュラムとの比較、検討を行った。  
委員提案の書式フォーマットに 「IT 活用可能性」 の項目を加え、各委員のレポートを事務局が Excel 形式にまとめ、12 月 12 日までに各委員にメールで配布する。日本における歯科医療教育のコンピテンシーも各委員が検討し、記入し、次回本委員会で総合的に検討す

る。

日本の歯科教育制度は、4年制大学を卒業後に歯科大学に入学する方式、あるいは社会的ニーズなどにより、アメリカ、ヨーロッパのコンピテンシーと比較して異なることが認識された。例えば以下の点が異なることが指摘された。

1. (ヨーロッパ 6-15) タバコの影響に関する教育に関し、日本では歯周病との関連から禁煙治療が可能か。

2. 「虐待と物質乱用」の項目

日本のコンピテンシーを考える上で、専門領域を詳細に決めることは不可能と考えられる。卒業時の到達レベルをどの程度にするか。また、「学生のコンピテンシー達成を如何に評価するか」等の問題が提起された。日本のグローバルスタンダードを作る場合、各大学が実行できる範囲内に抑えるのが適当と考えられた。

アドバイザーより、福岡歯科大学を中心とする8大学連携の「時代にあった社会的ニーズ」として「医科医療を取り入れた歯科医療」をテーマにした研究会があることが伝えられた。

本検討事項は日本歯科医学教育学会に発表予定である。

次回の委員会開催日 12月21日(月) 午後5時00分～7時00分